

APU初の公式携帯アプリ配信開始！ 日本語学習サポートアプリ「TOBIRA」“サバイバル編”

立命館アジア太平洋大学（APU、別府市、学長：出口光明）は、APUの言語教育センター（CLE）の教員が監修した日本語学習サポートアプリ「TOBIRA」“サバイバル編”の配信を、7月29日（水）より開始しました。APUがアプリを開発・提供するの今回は初めての試みとなります。

APUは開学20年来、多様な母語を持ち、入学時点の日本語力にもばらつきがある国際学生（英語基準）に、より効果的な日本語学習をしてもらうため、APUのオリジナル日本語学習テキスト（「日本語5つのとびら」凡人社）を作成するなど、多文化環境における日本語教育に力を入れてきました。

世界およそ90カ国・地域からAPUに入学する国際学生の日本語力は多様で、中には日本語の知識が全くない初級でAPUに入学する学生もいます。そのような国際学生がスムーズに日本で生活、また日本語学習を始められるよう、テキスト教材（「日本語5つのとびら（サバイバル編）」）を入学予定者に事前に送付するなど入学前の段階から日本語学習を行えるよう支援を行ってきました。

そして今回、スマートフォンなどでより手軽に利用できる学習環境を提供するため、2019年7月より「日本語5つのとびら（サバイバル編）」のコンテンツのアプリ化に着手しました。このアプリを入学前の国際学生に提供することで、気軽に、遊びも含めた日本語への親しみを促し、入学後の日本語学習への適応度を高めることを目指しています。APUでは2020年9月入学の国際学生（約450名予定）より、入学前学習としてこのアプリを利用推奨を開始します。

ユーザーの声を聞きながら、今後も引き続きアプリのコンテンツを豊富化していく予定です。

【アプリの概要】

日本語学習テキスト教材「日本語5つのとびら（サバイバル編）」の内容をもとに、下記の内容の書き方、読み方、聞き取り（音声）練習のコンテンツを収録。ひらがな、カタカナ／数字／時間表現／日本の通貨（紙幣・硬貨）曜日、日付、月／基本的な挨拶（「はじめまして」、「こんにちは」など）

配信開始日：2020年7月29日

費用：無料

対象：どなたでも利用可（APUでは入学前の英語基準学生へ、当アプリでの学習を推奨する）

対応デバイス：iPhone / iPod touch、Androidスマートフォン
※タブレット端末への本アプリの提供は行っていません。

インストール方法：App StoreまたはGoogle Playで「TOBIRA」で検索してインストール

推奨OSバージョン：iOS（iOS11.0以上）、Android（Android 8.0以上）
※全ての端末での動作を保証するものではありません。
※上記OSを搭載している端末であっても、OSのアップデートや端末の特別な設定、空き容量や通信状況・通信速度などが起因し、動作しない場合がございます。



アプリダウンロードはこちら



App Store



Google Play

ニュースリリース

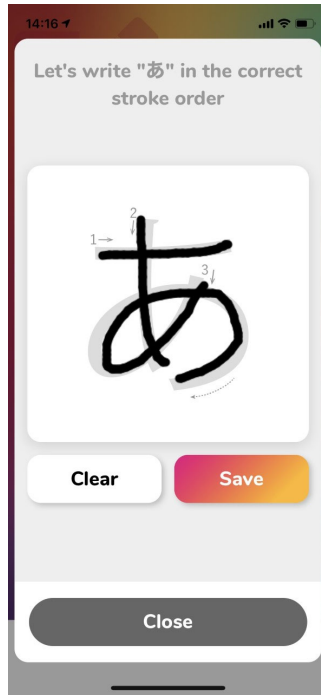
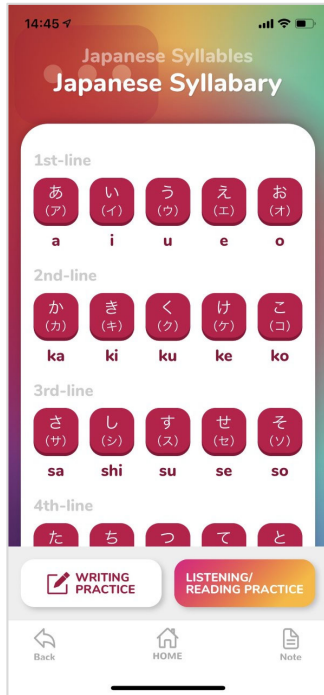
立命館アジア太平洋大学
2020年7月31日 配信 APUリリース 2020-14



20周年、
世界を変える
物語はつづく。
立命館アジア太平洋大学
2000・2020

Shape your world
APU
Ritsumeikan
Asia Pacific University

【アプリのイメージ画像】



【特に工夫した点】

- ・操作の際に外部との通信を極力行わずアプリ内で完結することで、パフォーマンス・ユーザビリティの両立を図りました。
- ・デザインについて、「学習アプリ」という堅いイメージにとらわれず、「気軽に楽しく日本語を学んでほしい」という思いから、イラストや、ポップな配色を採用しました。
- ・「勉強」というよりは「ゲーム」感覚で日本語を学ぶことを目的としました。

【アプリ監修者のコメント】

この度「日本語 5つのとびら(サバイバル編)」前半のアプリが完成しました。このアプリは、日本語をまったく知らない人たちに使ってもらうことを想定しています。APUが開学した20年前には、大学に入ってから日本語を勉強する大学生のための教科書はほとんどなかったので、初めて日本語を学習する大学生のための教科書「日本語 5つのとびら」を開発しました。「5つのとびら」は、入学前の準備の「サバイバル編」から始まり、学生生活に必要な日本語を学ぶ「初級編」Part1、Part2、日常生活と大学講義の橋渡しとなる「中級編」、アカデミック・ジャパニーズの基礎に触れる「中上級編」という流れになっています。「5つのとびら」という名前には、とびらをひとつずつ開けていくたびに新しい日本語の世界に出会ってほしい、そんな思いをこめました。サバイバル編のアプリの開発は、世界の各地にいる人たちに、このとびらを開くことで日本語の世界に触れてほしいという思いから始まりました。教科書がアプリに変わり、世界中どこにいても開くことのできるとびらになりました。ドラえもんのごとくドアのように、このとびらが世界中の人たちを日本語の世界にいざなってくれることを願っています。



言語教育センター (CLE)
センター長 本田 明子 教授